

指をさしている先は

作成日 2023年9月26日(火)
作成者 進藤早苗
対象 0歳児 みにぼら組

ねらい：指さしや喃語で自分の欲求が伝わることに喜びを感じる。



保育の振り返り

保育室の絵本に『ぼうしかぶって』があります。何度も保育者の膝の上で読み聞かせをしてもらっている絵本です。『帽子被っていきます！』というセリフがありますが、ある時読み終わると、帽子入れを指をさしながら必死に気持ちを伝えてくる子がいました。保育者は、どうしたいのか気持ちを汲みとりながら、高い位置にあった箱を、手の届くところに置いてみました。箱の中から帽子を取り出し、被りたいことを伝えてくれました。帽子を被ると入り口の傍に行き、『向こう(ルンビニや外)に行きたい』と伝えてくれました。別の日には、そういう姿を見ていた、友達も自分も帽子を被りたいと伝えてきました。保育者が被せると、やはり入り口の前に行き、扉を開けてほしいことを指をさしながら伝える姿が見られました。どの子も続きながら入り口に向かいました。また、生活の流れが場面、場面につながったこと、友達を見て自分もしたいという気持ちになっていることに気付きました。帽子を嫌がり、脱ぎ捨てていたこともありましたが、自分で被りたいという気持ちをもてたことも嬉しく、保育者の言葉かけにも、『ん』と反応が返ってくることも多くなりました。これからも安心する環境の中で、子ども達が親しみを持ち、気持ちを通わせていけるような保育者でいたいなと感じました。また、そういうかかわりをもっと深めながら、保育していきたいと感じた場面でした。

(言葉による伝え合い、健康な心と体、自立心)